第２講　源流思想（2014 年度追試２）

（解答番号 11 ～ 19 ）

第２問　次の文章を読み，下の問い（問１～９）に答えよ。（配点　24）

勉強していて，こんなことを知って何か意味があるのか，と思ったことはないだろうか。実は，それは大事な疑問である。先哲たちは，知るということに，よく生きるうえで深い意味があることを，我々に知らせてくれるのである。

かつて中国で実施された科挙では，合格のためにⓐ儒教の経典を暗記することが必要とされた。しかし，その経典の一つには「知ることが難しいのではない，行うことが難しいのだ」と記されている。ⓑイスラーム教でも，クルアーン（コーラン）を学んでアッラーの意志や命令を知り，それを社会生活において実践しなければならないとされる。知ることは，実践のきっかけになるのであり，そこから，どう実践するかについて考えることの重要性も浮かび上がってくる。イエスが律法学者たちを批判したのは，彼らが律法を形式的に適用して，貧しさなどのためⓒ律法を守ることができない人々を，罪人扱いしたからである。律法を知っていると言うのなら，弱い立場の人々と関(かか)わるなかで律法の根底にある神の愛の教えを実践すべきだ，とイエスは考えたのである。知ることは，ⓓ社会のなかでいかに他者とともに生きるかを考えることにつながらねばならないだろう。

一方，いかに他者とともに生きるかを考えようとするならば，自分のあり方についても考える必要がある。古代ギリシアには，世の中で生きていくうえですぐに役立つⓔ知を求めて，ソフィストに学ぶ人々がいた。しかし，ⓕソクラテスは，「本当に善く生きるとはどういうことか」という，より根本的な問いをソフィストに対して投げかけた。そうした対話は，人々に無知の自覚と，自分のあり方の問い直しを促すものであった。煩悩から完全に逃れる道を知ろうと出家したⓖブッダも，自分のあり方についての問いを掘り下げたと言えるだろう。そして，独立した確固たる自分が存在するという考え方自体が無知の産物であり，その無知が煩悩の根本であると悟ったのである。ⓗ自分のあり方について考えることで，知の求め方も大きく変わるのだ。

このように，知ることは，様々に考えを深めるきっかけとなり得る。せっかく先哲の思索に触れたのである。単に知識を増やして終わりにはせず，自分と他者との関わり方や，自分のあり方について，考えてみてほしい。

問1　下線部ⓐに関連して，次の文章は，儒家の思想に対する他の思想家からの批判についての記述である。［a］［b］に入れる人名の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。［11］

［a］は，儒家の礼や仁を人為的なものとして批判し，それらが必要ない社会こそ理想であると説いた。一方，［b］は，儒家の仁政という考え方を批判し，法による信賞必罰の仕組みでなければ統治はできないと説いた。

① **a**　韓非子　**b**　墨　子
② **a**　韓非子　**b**　老　子
③ **a**　墨　子　**b**　韓非子
④ **a**　墨　子　**b**　老　子
⑤ **a**　老　子　**b**　韓非子
⑥ **a**　老　子　**b**　墨　子

問2　下線部ⓑに関して，イスラーム教の唯一神アッラーについての説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。［12］

① 一切を超越した神であり，いかなる偶像によっても表すことはできない。この神は，モーセやイエスの説いた神と同じであるとされる。
② 神は全知全能で，人間に審判をくだす。そして，最後の審判において，死んだ人間をすべて復活させ，天国に入れるとされている。
③ 一切を超越した神であり，彫像によって表すことはできない。ただし，神の肖像画のみは認められており，これがイコンと呼ばれる。
④ 神は全知全能で，人間に審判をくだす。そして，この審判を一千年ごとに行い，正義を確立するとされる。

問3　下線部ⓒに関して，律法と罪についてパウロが記した次の文章※を読み，その内容を踏まえて，パウロの思想についての記述として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。 **13**

※この部分につきましては，著作権の都合上
掲載することができません。

① 律法を守ることで人間が本当に救われるわけではない。人間は，既にキリストへの信仰により救われて，罪から完全に解放されているので，もはや自らの罪深さに苦しむことはない。

② 律法は人間に本当の罪とは何かを教える。人間は，律法で定められた罪に陥らないために，貧しい者や病気の者に金品を施す等の，具体的な行動によって神の愛を表さねばならない。

③ 律法を守ることで人間が本当に救われるわけではない。人間は，律法によっては，悪をなすほかない自らの罪を知るだけであり，律法ではなく，キリストへの信仰によって救いに至る。

④ 律法は人間に本当の罪とは何かを教える。人間は，十字架につけられて死んだキリストと同様，他者の贖罪のために自らを犠牲にすることで，律法の根底にある神の愛を実践することができる。

問４　下線部ⓓに関連して，知ることと社会的実践との関係についての記述として適当でないものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 **14**

① ムスリムは，ジハードを義務づけられている。ジハードとは，聖典を通して知られる神の意志に基づいて，神の定めた正義を世界に広めようと奮闘することである。

② 王陽明は，朱子学を知性偏重であると批判して，知ることは行いの始めであり，行いにより知ることが完成する，と説いた。この考え方は居敬窮理と呼ばれ，社会を導く知識人が実践すべきものとされる。

③ ガンディーは，自らの政治運動において「真理把持」を意味するサティヤーグラハの理念を掲げた。そこで重視されたのが，仏教やジャイナ教でも共通して説かれたアヒンサー(不殺生)の実践である。

④ プラトンは，『国家』において，知恵の徳をそなえた哲学者が，防衛者階級・生産者階級を治めることを理想の統治のあり方とした。この体制は哲人政治と呼ばれる。

問５　下線部ⓔに関連して，「すべての人は自然本性上知ることを欲する」という言葉から始まるアリストテレスの著作として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 **15**

① 『省察』

② 『形而上学』

③ 『自省録』

④ 『クリトン』

問6　下線部ⓕに関して，自らの知をめぐって，ソクラテスがどう考えていたかの説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 16

① 自分に何一つ知恵はないが，人間にとって最善のことだけは知っている，と自覚していた。
② 自分が知者だと思い上がらないために，知っていても知らないふりをするべきだと考えていた。
③ 自分は大切なことについて知らないので，そのとおりに，知らないと自覚していた。
④ 知らないと知っている以上，自分はすべてを知っていることになると考えていた。

問7　下線部ⓖに関して，ブッダの教えを表す四つの命題である「四法印」についての説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 17

① 「諸法無我」とは，それ自体で存在するような不変の実体は何もない，という教えを指す。また「一切皆苦」とは，一見楽しそうなことも含め，この世の現実のすべては苦しみにほかならない，という教えを指す。
② 「諸行無常」とは，あらゆる行為は常に変転し続けるので，苦行にも意味はない，という教えを指す。また「涅槃寂静」とは，我執を断った安らぎの境地へと至ることが理想である，という教えを指す。
③ 「諸法無我」とは，ブッダのもろもろの説法は，すべて「我などない」という一つの真理を表している，という教えを指す。また「一切皆苦」とは，心のなかの煩悩が一切の苦しみの原因である，という教えを指す。
④ 「諸行無常」とは，すべてのものは常に変転し続け，とどまることはない，という教えを指す。また「涅槃寂静」とは，聖典に定められた様々な祭祀（さいし）の執行を通して解脱に至るべき，という教えを指す。

問８　下線部ⓗに関連して，次の**ア**～**ウ**は様々な思想や宗教における，知の位置づけについての説明である。その正誤の組合せとして正しいものを，下の次の①～⑧のうちから一つ選べ。 18

ア　アウグスティヌスは，哲学を「神学の侍女」と位置づけ，信仰の追求には不要であると述べている。

イ　孟子は，自分や他人の正しくない点を恥じて憎む心を養い育てていくことで，四徳の一つである智を実現できると主張している。

ウ　大乗仏教において，六波羅蜜という六つの実践徳目の一つに位置づけられている「智恵」は，迷いを離れ真実を悟る働きのことである。

①	**ア**　正	**イ**　正	**ウ**　正
②	**ア**　正	**イ**　正	**ウ**　誤
③	**ア**　正	**イ**　誤	**ウ**　正
④	**ア**　正	**イ**　誤	**ウ**　誤
⑤	**ア**　誤	**イ**　正	**ウ**　正
⑥	**ア**　誤	**イ**　正	**ウ**　誤
⑦	**ア**　誤	**イ**　誤	**ウ**　正
⑧	**ア**　誤	**イ**　誤	**ウ**　誤

問９　本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 19

① 知るということは，単に知識を増やすというだけではなく，生活のあり方，他者との関わり方，ものの見方を根本から考え直し，自らのあり方についても考えを深める契機となり得る。その際には，自分は，何を，どのように知ろうとしているのか，ということを考える姿勢が必要となるだろう。

② 実践できてこそ，知識は意味をもつ。したがって，まずは社会生活と密接に関わる物事について知ろうとするべきである。そして，人々とともに生きていくために役立つ知識を得てそれを実践し，全体の利益につながるように，自分のあり方を反省することが重要である。

③ 知るということは，自分についての考え方を深めることだけではなく，社会についての考え方を深めることにもつながる。社会のなかで，自分の正しいあり方について知ることにより，我々は社会問題の原因が何なのかを正確に把握して，解決法を見いだすことができるようになるだろう。

④ 実践できてこそ，知識は意味をもつ。したがって，まずは今ここで自分にできることは何か，を知ることが肝心である。自分の能力の限界を超えたことまでできると考えることは思い上がった傲慢（ごうまん）なことであり，むしろ，自分のあり方について疑いを抱く態度が必要である。

〈***Note***〉

第２講　日本思想（2014 年度追試３）

（解答番号 20 ～ 28 ）

第３問 次の文章を読み，下の問い（問１～９）に答えよ。（配点　24）

人は，個であると同時に，一人では生きられない。そのため，自己の生き方を考えるとき，他者とどのように共同して生きるのかという問いが生まれる。こうした問題は，日本ではどのように考えられてきたのだろうか。

古代，人々は，神々を祀（まつ）ることで村落共同体の繁栄を願った。共同体の繁栄によって，幸せが得られると考えたのである。大陸から伝来したⓐ仏教も，国家という共同体に安泰をもたらすものとして受け止められた。だが，仏教はまた，人はみな煩悩に苦しむ存在であり，自己の救済と他者の救済は結び付いているという教えをもたらした。その教えに基づき，最澄は他者を救う力を求めて山岳修行に努めた。自他の救済という課題は，後のいわゆるⓑ鎌倉新仏教にも引き継がれていく。例えば，一遍は，広く人々に念仏をすすめ，ともに往生することを目指した。

江戸時代には，儒学者は，人倫関係を軽視するものとしてⓒ仏教を批判し，親子や主従など日常的な人間関係に関心を向けることを主張した。例えば，伊藤仁斎は，身近な人との共同のあり方として，ⓓ儒学の孝悌忠信という教えに注目した。一方，ⓔ国学者は，儒学や仏教を外来の教えとして批判した。彼らは古（いにしえ）の日本人に，外来の教えに縛られることなく，固有の文化や言語を共有して生きる，理想の共同のあり方を見いだしたのである。

近代になり，西洋文明を受容した啓蒙思想家は，個人が自覚的に国家の担い手となる新たな国造りを目指した。福沢諭吉は，「一身独立して一国独立す」と述べ，日本の対外的な独立には，学問による一人ひとりの独立が必要であると説いた。しかし，富国強兵を目指すⓕ急速な近代化のなかで，例えば，平民主義を唱えた徳富蘇峰が，徐々に国家主義的主張に転じていったように，国家重視の傾向が強くなっていく。こうした状況のなかで，高まる社会的不平等を批判し，ⓖ貧しい人々や女性など社会的弱者の救済を訴える者もいた。さらに敗戦後には，ⓗ戦時期への反省から，個人が尊重される，新たな社会の実現を目指す主張が現れた。

人は，他者とともに生きている。それゆえ，生の有り様を考える際，他者との関係を切り離すことはできない。ならば，自己がよりよく生きるために，他者との共同のあり方を模索することが重要なのではないだろうか。

問１　下線部ⓐに関連して，仏教による鎮護国家が目指された時代の人物である行基の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 **20**

① 人間は凡夫であると謙虚に自己を認識し，この世は空(むな)しく仮のものであり，ただ仏だけが真実である，と説いた。

② 諸国を遊説し，橋や道を造り，民間に慈悲の精神を広めた。後には天皇の尊崇を受けて，大仏の建立にも関(かか)わった。

③ 都に大仏を建立し，全国に国分寺・国分尼寺を造り，僧侶に経典を読誦(どくじゅ)させ，国家の安定や滅罪を祈願した。

④ 多くの苦難を乗り越えて唐から渡来した。東大寺に戒壇を設け，公認の僧となるための正式な授戒制度を確立した。

問２　下線部ⓑに関して，栄西の思想の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 **21**

① 外には戒律を守り，内には慈悲の心を保って坐禅に打ち込み，悟りに達することによって，自己だけでなく国家をも平安にできる。

② 自ら善行ができると思う人は，自分に煩悩があるという自覚がない。自らの煩悩を自覚し，阿弥陀仏の他力をたのむ人にこそ救済はある。

③ ひたすら坐禅をして，身心を尽くした修行が重要であり，それにより，一切の束縛から解放され，身心脱落の境地に至る。

④ 釈迦の教えを正しく伝える『法華経』にこそ真理がある。この経典を最高のものとして尊重し，題目を唱えることで成仏は可能になる。

問３　下線部ⓒに関して，戦国時代から江戸時代の初期に，仏教を棄(す)てて儒学者となり，後に近世儒学の祖とされた人物として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 **22**

① 西川如見
② 室鳩巣
③ 木下順庵
④ 藤原惺窩

問４　下線部ⓓに関して，次の**ア**～**ウ**は，儒学に基づいて生きることを主張した江戸時代前期の思想家についての説明であるが，それぞれ誰(だれ)のことか。その組合せとして正しいものを，次の①～⑧のうちから一つ選べ。

23

ア　孝に，人倫関係を成り立たせている根本原理を見いだし，すべての人が儒学を学び実践すべきだと主張した。
イ　敬と義を重視して君臣関係のあるべき姿を論じるなど，厳格に朱子の教えを守って生きるべきだと主張した。
ウ　武芸を重んじ学問を軽んじる当時の武家の風潮に対し，武士は，儒学に基づき，為政者としての役割を果たすべきだと主張した。

	ア	イ	ウ
①	山崎闇斎	中江藤樹	熊沢蕃山
②	山崎闇斎	山鹿素行	中江藤樹
③	中江藤樹	山崎闇斎	山鹿素行
④	中江藤樹	熊沢蕃山	山崎闇斎
⑤	熊沢蕃山	中江藤樹	山鹿素行
⑥	熊沢蕃山	山鹿素行	中江藤樹
⑦	山鹿素行	山崎闇斎	熊沢蕃山
⑧	山鹿素行	熊沢蕃山	山崎闇斎

問５　下線部ⓔに関して，平田篤胤の思想の説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 **24**

① 『万葉集』を，古の遺風を伝える書物と考え，儒学や仏教の解釈によらずに，文献学的・実証的に研究すべきだと主張した。古来の為政の理想である古道を見いだす学問を始め，国学の祖と言われる。

② 和歌や物語文学を通じて歌道を研究するなかで，漢意を捨てて，悲しむべきことを悲しみ，喜ぶべきことを喜ぶ，ありのままの心のはたらきを知ることこそが大切であると説いた。

③ 古道を知るには『万葉集』を研究すべきであると考え，儒学や仏教の影響を受けていない日本人の素朴な自然のままの境地の重要性を主張し，「高く直き心」を理想とした。

④ 死後の霊魂の行方を論じるなど，日本人の死後の安心にも関心を抱いた。また，仏教や儒学の教説を排除し，神の子孫である天皇を中心とした古代の道に立ち戻るべきだと，独自の神道説を唱えた。

問6　下線部ⓕに関して，日本の近代化について述べた夏目漱石の次の文章を読み，その説明として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。 **25**

日本の開化は自然の波動を描いて甲の波が乙の波を生み乙の波が丙の波を押し出すように内発的に進んでいるかというのが当面の問題なのですが，残念ながらそう行って居ないので困るのです。……日本の現代の開化を支配している波は西洋の潮流で，その波を渡る日本人は西洋人でないのだから，新しい波が寄せるたびに，自分がその中でいそうろうをして気兼ねをしているような気持ちになる。新しい波はとにかく，今しがたようやくの思いで脱却した旧(ふる)い波の特質やら真相やらも弁(わきま)えるひまのないうちに，もう棄てなければならなくなってしまった。……これは開化じゃない，開化の一端ともいえないほどの些細(ささい)な事である。……我々のやっている事は内発的でない，外発的である。これを一言にしていえば，現代日本の開化は皮相上滑りの開化であるということに帰着するのであります。……それが悪いからおよしなさいというのではない。事実やむをえない，涙を呑(の)んで上滑りに滑って行かなければならないというのです。　（「現代日本の開化」より）

① 現代の開化は，皮相で外発的なものであり，それは受動的に時代に流されているということである。日本の開化は受け身ではなく，主体的で内発的な近代化でなければならないし，それは可能であると漱石は主張している。

② 随時新しいものを輸入し，以前の考え方を刷新することで，内発的な近代化が可能になる。新しいものを取り入れることには苦労が伴うが，その苦労を引き受けることで，真の近代化が可能になると漱石は述べている。

③ 西洋の新しいものを単に受け入れるのではなく，その中身を吟味し消化する内発的な近代化が大切であるが，実現は困難である。内発的な近代化という理想と，外発的な近代化が進む現状との落差を，漱石は指摘している。

④ 現代の開化は，西洋の内発的で順調な近代化と比較して，正常なコースを大きく外れたものである。このままでは日本は西洋に追いつくことはできないと，嘆くしかない悲観的な現実認識を漱石は示している。

問7　下線部ⓖに関して，次の**ア**～**ウ**は当時の貧しい人々や女性など社会的弱者の問題について考えた人物の説明である。その正誤の組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。 **26**

ア　北一輝は，貧しい農民や労働者を救うために，現状を変革し，富が平等に分配されるようにすべきだと訴えた。そのためには，天皇と国民が直結する国家の建設が必要だと考え，『日本改造法案大綱』を著した。

イ　与謝野晶子は，歌人として，自己の感情や官能を大胆に歌い，人間性の解放を主張した。また，「元始，女性は実に太陽であった」と主張し，女性の解放を求める運動を展開した。

ウ　河上肇は，『貧乏物語』を著すなど，貧困への対策の必要を説いた。彼は，内村鑑三やトルストイの影響を受けた人道主義者であったが，後には，次第にマルクス主義的主張に傾斜していった。

①	**ア**　正	**イ**　正	**ウ**　正
②	**ア**　正	**イ**　正	**ウ**　誤
③	**ア**　正	**イ**　誤	**ウ**　正
④	**ア**　正	**イ**　誤	**ウ**　誤
⑤	**ア**　誤	**イ**　正	**ウ**　正
⑥	**ア**　誤	**イ**　正	**ウ**　誤
⑦	**ア**　誤	**イ**　誤	**ウ**　正
⑧	**ア**　誤	**イ**　誤	**ウ**　誤

問８　下線部ⓗに関連して，次の文章は，戦後のあるべき社会や生き方についての主張の記述である。［a］～［c］に入れる語句の組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。［27］

［a］は，「何となく何物かに押されつつ，ずるずると」開戦に至り，戦争をやめることができなかった戦前・戦中の日本社会に，無責任の体系を見いだし，批判的な検討を加えた。そして，戦後の社会において，［b］による民主的な市民社会の形成を唱えた。一方，竹内好は，中国の近代化に，日本とは異なる可能性を読み取り，日本の近代化の優等生的な性格を批判し，アジアに開かれた日本のあり方を模索した。

また，坂口安吾は，人間本来の姿に戻ることを［c］と呼び，偽り飾ることのない「ただの人間になる」べきだと主張した。時流に乗って民主主義を主張する人も多いなか，彼は一人ひとりが新たな戦後を反省的に始めるべきだと説いたのである。

①	**a**	丸山真男	**b**	労働者階級	**c**	諦念
②	**a**	丸山真男	**b**	労働者階級	**c**	堕落
③	**a**	丸山真男	**b**	近代的主体	**c**	諦念
④	**a**	丸山真男	**b**	近代的主体	**c**	堕落
⑤	**a**	小林秀雄	**b**	労働者階級	**c**	諦念
⑥	**a**	小林秀雄	**b**	労働者階級	**c**	堕落
⑦	**a**	小林秀雄	**b**	近代的主体	**c**	諦念
⑧	**a**	小林秀雄	**b**	近代的主体	**c**	堕落

問９　本文の内容に合致する記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 28

①　人は，よりよく生きるために，他者との関係から目を背けず，共同のあり方を模索することが必要である。例えば，近代の啓蒙思想家は，国家と個人の関係を重要視し，個人が自覚的に担う新たな国造りを目指した。そして彼らは，国家の繁栄を優先し，個人の権利は国家の繁栄のためにのみ行使されるべきだと主張した。

②　人は，他者とどのように共同するのかを考えるなかで，自己のあり方を模索する必要がある。例えば，国学者は，従来の仏教や儒学の受容のあり方を，外来の教えに対して従属的であると批判した。そして彼らは，あるがままに生きた古代日本人の共同のあり方を理想化し，外来思想と積極的に共存する開かれた日本文化の確立を主張した。

③　人は，よりよく生きるために，他者との関係から目を背けず，共同のあり方を模索することが必要である。例えば，仏教者は，誰もが煩悩を抱いて苦しむ存在であると考え，自他の救済について様々な試みを積み重ねていった。そして彼らは，誰もが救済されるためには，まず個を捨てて，他者と一体化することが必要であると主張した。

④　人は，他者とどのように共同するのかを考えるなかで，自己のあり方を模索する必要がある。例えば，儒学者は，人と人とのつながりを省みないとして仏教を批判し，父子の君臣のような人倫関係のなかに，あるべき生き方を求めた。そして彼らは，身近な人とどのように共同するかという問題こそが重要なのだと主張した。

第２講　解答

源流思想（2014年度追試２）

問１	11	⑤	問２	12	①	問３	13	③
問４	14	②	問５	15	②	問６	16	③
問７	17	①	問８	18	⑦	問９	19	①

日本思想（2014年度追試３）

問１	20	②	問２	21	①	問３	22	④
問４	23	③	問５	24	④	問６	25	③
問７	26	③	問８	27	④	問９	28	④

〈***Note***〉

第2講　総まくり○×テスト

源流思想

古代ギリシアの思想

1　『イリアス』『オデュッセイア』はともにホメロスの作と伝えられる。

2　タレスは，万物の根源〔アルケー〕を火であるとした。

3　ソフィストのプロタゴラスは，「人間は万物の尺度である」と語った。

4　ソクラテスの心理の探求法を，問答法〔助産術〕という。

5　プラトンは，アテネ郊外にリュケイオンという学園を設立した。

6　アリストテレスは，さまざまな学問の基礎を確立し「万学の祖」と呼ばれる。

7　ゼノンが説いたストア派の信条は「隠れて生きよ」である。

8　エピクロスは，外界から煩わされない魂の平静な境地(＝アタラクシア)を理想とした。

9　五賢帝の最後であるマルクス＝アウレリウス＝アントニヌスは，ストア派の哲学者で『自省録』を著した。

ユダヤ教

1　イスラエル人は，ヘブライ人やユダヤ人とも呼ばれる。

2　モーセは出エジプトの途中，シナイ山でヤハウェ〔神〕から十戒を授かり，これを民に示した。

3　エルサレムにある「岩のドーム」が，ユダヤ教の聖地である。

キリスト教

1　マリアはイエスの母で，聖母と呼ばれている。

2　イエスは，神の愛〔アガペー〕や隣人愛を説いた。

3　『旧約聖書』では，イエスが十字架上の死後3日目に復活し，弟子たちの前に現れたとされる。

4　十二使徒の一人ペテロは，ローマ教会の創始者であり，初代教皇とみなされている。

5　パウロが信者にあてた「コリント人への手紙」「ローマ人への手紙」は『新約聖書』に収められ，聖典とされている。

6　キリスト教の三元徳は，信仰・希望・愛である。

7　古代キリスト教会最大の教父アウグスティヌスは，『神の国』『告白』を著した。

8　中世スコラ哲学では，「神学は哲学の侍女」とみなされた。

9　トマス＝アクィナスは『神学大全』を著しスコラ哲学を完成させた。

イスラーム

1　メッカはムハンマド生誕の地で，カーバ神殿はイスラームの聖域となっている。
2　イスラームにおいて信じるべき項目は6つあり，六信と呼ばれる。
3　イスラームでは厳しく偶像崇拝を禁じている。
4　最大・最後の預言者ムハンマドの後継者とされるイスラームの教主を，ウンマという。
5　イスラームの多数派はシーア派である。

インド思想と仏教

1　カースト制度最高の位置を占めるのは，司祭階級のバラモンである。
2　バラモン教の聖典が『ブラフマン』である。
3　ジャイナ教の開祖はヴァルダマーナ〔マハーヴィーラ〕である。
4　仏教が説く，「すべてのものは相互に寄り合い成立しており，無条件にそれ自体で存在するものはない」という存在の法則を解脱という。
5　「一切皆苦」「諸行無常」など，ブッダの悟った普遍的真理をあらわす4つの命題を四諦という。
6　快楽と苦行の極端を避け，どちらにも偏らない道を中庸という。
7　6世紀に朝鮮半島を通じ日本に伝来したのは，大乗仏教〔北伝仏教〕である。
8　ナーガールジュナ〔竜樹〕は，「空」の思想を強調し，哲学的にまとめた大乗仏教最大の思想家である。

中国の思想

1　諸子百家のうち，兼愛・非攻・交利などを説いたのは兵家である。
2　儒家の荀子に学び法家の思想の大成者となったのは韓非子である。
3　「己の欲せざるところは人に施すことなかれ」「己に克ちて礼に復るを仁となす」「いまだ生を知らず，いずくんぞ死を知らん」は孔子の言葉である。
4　孟子は道徳の中心として仁義を重んじた。
5　荀子の政治思想は徳治主義である。
6　朱子〔朱熹〕は宋の人である。
7　儒教の根本的教典である四書とは，『論語』『孟子』『大学』『礼記』のことである。
8　王陽明〔王守仁〕は「知行合一」を説いた。
9　「大道廃れて仁義あり」「上善は水のごとし」は老子の言葉である。
10　荘子の中心的な思想は「万物斉同」である。

日本思想

日本の風土と文化

1　和辻哲郎は，『風土』を著し，気候や地形など人間を取り巻く自然環境で世界を３類型に分けた。
2　奈良時代に成立した，日本最古の和歌集は『古今和歌集』である。
3　伊勢神宮の内宮に祀られる，天皇の祖先神とされる太陽神は天照大神である。
4　奈良時代の712年に成立した，日本最古の史書は『日本書紀』である。
5　神聖な水を使い，心身の穢れを洗い清めることを禊という。

日本の古代思想

1　聖徳太子は，死に臨み妻に「世間虚仮・唯仏是真」と語ったとされる。
2　奈良時代，行基が中国の唐から来日して律宗を伝えた。
3　最澄〔伝教大師〕は天台宗を開き，近江国に比叡山延暦寺を開山した。
4　密教の中心仏は大日如来である。
5　仏教を中心とする神仏習合の考えを本地垂迹説という。
6　「南無阿弥陀仏」と唱えることを三密という。
7　空也は「厭離穢土・欣求浄土」のための念仏を説き，『往生要集』を著した。

日本の中世思想

1　浄土真宗〔一向宗〕を開き，『教行信証』を著したのは親鸞である。
2　道元が唱えた，ひたすら坐禅に打ち込むことを身心脱落という。
3　日蓮宗で唱える題目とは「南無妙法蓮華経」である。
4　能の大成者で，『風姿花伝〔花伝書〕』を著したのは世阿弥である。

日本の近世思想

1　京都の臨済僧藤原惺窩は，朱子学の一派である京学の祖とされる。
2　朱子学の一派である南学には，垂加神道を唱えた木下順庵が出た。
3　肥前藩士山本常朝の『葉隠』冒頭は「武士道というは，死ぬことと見つけたり」である。
4　中江藤樹が強調した，孝の心の実践のあり方を「時・処・位」という。
5　伊藤仁斎・東涯父子が教鞭をとった私塾は京都の古義堂である。
6　荻生徂徠の唱えた古学の一派を古文辞学派という。
7　荷田春満は『万葉代匠記』を著し，国学の先駆者となった。
8　本居宣長は『源氏物語玉小櫛』で「もののあはれ」を知る人こそ，心あるよ

き人として理想化した。

9　「商人の買利は士の禄に同じ」は，『都鄙問答』に出てくる近松門左衛門の言葉である。

10　『自然真営道』を著した二宮尊徳が説いた理想の社会を自然世という。

11　杉田玄白・前野良沢らが訳出した初の西洋医学書は『解体新書』である。

12　松代藩の横井小楠は「東洋道徳，西洋芸術」という言葉で和魂洋才のあり方を説いた。

日本の近代思想

1　1873年に森有礼の発議で結成された明六社は，福沢諭吉・中村正直・西周・加藤弘之らが所属した啓蒙思想団体である。

2　「東洋のルソー」と呼ばれた中江兆民は，日本の恢復的民権を実質的に恩賜的民権に育てていくべきである，と説いた。

3　「二つのＪ」とは，新渡戸稲造が生涯を捧げようと誓った，イエスと日本のことである。

4　徳富蘇峰は，雑誌『国民之友』，新聞『国民新聞』を創刊して平民主義を唱えた。

5　西村茂樹は『日本道徳論』を著し，儒教を根幹として西洋哲学の長所を取り入れて道徳を再建すべきことを説いた。

6　吉野作造の民本主義と美濃部達吉の天皇機関説は，ともに大正デモクラシーを代表する思想である。

7　与謝野晶子は，雑誌『青鞜』創刊号の巻頭に「元始，女性は実に太陽であった」という言葉を載せた。

8　1901年に安倍磯雄・幸徳秋水らが結党した社会民主党は，わが国初の社会主義政党であった。

9　想世界（＝内面的世界）を重んじ，信仰と愛によってその実現をはかるべきことを説いた北村透谷は，ロマン主義を代表する人物である。

10　田山花袋は，晩年に「則天去私」の境地を唱えた。

11　『善の研究』は，鈴木大拙の代表的著書である。

12　柳田邦男や折口信夫，南方熊楠は，わが国を代表する民俗学者である。

13　『日本改造法案大綱』の著者である超国家主義者の北一輝は，二・二六事件の首謀者として処刑された。

日本の現代思想

1　『超国家主義の論理と心理』を著した政治学者は石橋湛山である。

2　小林秀雄は『様々なる意匠』を著し，日本の近代批評を確立した。

第2講　○×テスト　解答

古代ギリシアの思想

1　○　2　×(火→水)　3　○　4　○

5　×(リュケイオン→アカデメイア)　6　○

7　×(隠れて生きよ→自然に従って生きる)　8　○　9　○

ユダヤ教

1　○　2　○　3　×(岩のドーム→嘆きの壁)

キリスト教

1　○　2　○　3　×(旧約聖書→新約聖書)　4　○　5　○　6　○

7　○　8　×(神学は哲学の侍女→哲学は神学の侍女)　9　○

イスラーム

1　○　2　○　3　○　4　×(ウンマ→カリフ〔ハリーファ〕)

5　×(シーア派→スンナ派〔スンニー〕)

インド思想と仏教

1　○　2　×(ブラフマン→ヴェーダ)　3　○　4　×(解脱→縁起)

5　×(四諦→四法印)　6　×(中庸→中道)　7　○　8　○

中国の思想

1　×(兵家→墨家)　2　○　3　○　4　○

5　×(徳治主義→礼治主義)　6　○　7　×(礼記→中庸)　8　○

9　○　10　○

日本の風土と文化

1　○　2　×(古今和歌集→万葉集)　3　○

4　×(日本書紀→古事記)　5　○

日本の古代思想

1　○　2　×(行基→鑑真)　3　○　4　○　5　○

6　×(三密→念仏)　7　×(空也→源信)

日本の中世思想

1　○　2　×(身心脱落→只管打坐)　3　○　4　○

日本の近世思想

1　○　2　×(木下順庵→山崎闇斎)　3　○　4　○　5　○

6　○　7　×(荷田春満→契沖)　8　○

9　×（近松門左衛門→石田梅岩）　10　×（二宮尊徳→安藤昌益）

11　○　12　×（横井小楠→佐久間象山）

日本の近代思想

1　○　2　×（恢復的民権と恩賜的民権が逆）

3　×（新渡戸稲造→内村鑑三）　4　○　5　○　6　○

7　×（与謝野晶子→平塚らいてう）　8　○　9　○　10　○

11　×（鈴木大拙→西田幾多郎）　12　○　13　○

日本の現代思想

1　×（石橋湛山→丸山真男）　2　○